

V. 特記事項

1. 医療系学部合同授業「ヒューマンコミュニケーション」、「医療コミュニケーション」について（板橋キャンパス）

医学部・薬学部・医療技術学部による学部横断型カリキュラムとしてチーム医療に欠かせないコミュニケーション教育を1年次に「ヒューマンコミュニケーション」、4年次に「医療コミュニケーション」を実施している。これらの合同授業は同じキャンパスに医療系学部が集結し、医学部附属病院が隣接する本キャンパスならではの恵まれた教育環境を活かし、現代医療に不可欠となったチーム医療において即戦力となる人材を養成するための多職種連携教育の授業である。

例えば「医療コミュニケーション」では、チーム医療の重要性を理解し、多職種から構成されるチームで患者に関する情報を正確に伝達し合い、共有するコミュニケーション能力、そして身体的・心理社会的問題を抽出・整理し、解決の方向を見出す能力を習得することを目的として実施しており、令和2(2020)年9月に実施した「医療コミュニケーション」では、臨床検討事例「糖尿病を放置し足壊疽を発症した50歳代男性のケース」について、グループワークを実践した。学生はそれぞれが志す医師・薬剤師・看護師・視能訓練士の立場から意見を出すことで、多角的な視点から患者をとらえることができ、多職種間コミュニケーションの重要性および多職種連携による医療チーム力の向上を実体験した。

2. アイデアを形に 学びと創造の道具箱（八王子キャンパス）

ACTは、学生の授業外学修と自律的学修支援を目的とした複数のラーニングコモングの集合体である。(ACT1・ACT2・ACT3・ACTrium、PC 369席、グループ学習室 11室)

学生の学びの段階に合わせ、情報を収集、議論し、創造・編集、発信・発表するまでの自律的学修過程を4つの施設でフォローしている。

特にACT3は、学生のアイデアを形にすることに特化した空間であり、ホワイトボード仕様の机や、ペーパーシートを備えた机等、アイデアを共有しプロトタイプ化するためのツールを備えている。また、ラーニングコモング全体で共読サポーターズによる本のディスプレイを展開し、知的好奇心を刺激する空間をデザインしている。さらに、学修基礎力獲得が必要な学生の学修支援のため、学生組織（ピアサポーター）が常駐して授業外の学修のサポートを行っている。

3. 質の高い学習者本位の教育

本学では、自己点検・自己評価委員会を中心に実施してきた既存の自己点検活動に加え、より質の高い学習者本位の教育を実現するべく、令和2(2020)年度より学士課程の教育のあり方の抜本的な再定義に着手した。これに向け、令和2(2020)年11月に各学部の代表教員等から成る教務システム／学修ポートフォリオ検討委員会を設置し、同委員会での討議を通じて、ディプロマ・ポリシーを補完する「修得目標」の策定、同修得目標を指針としたカリキュラムの点検、その獲得状況の評価方針の具体化、を推進してきた（資料特-3-1~特-3-3）。